

男子部中等科1年 生活・英語

「Self-Management of Our Dormitory Life—「物・お金・時間」の管理について—」

石田 恵理 針谷 健太

男子部の中等科1年生は、新しい環境・仲間・学びなどすべてを新しくスタートさせる。1年生は入学と同時に大人のいない自治寮である東天寮に入って1年間生活することを通し、自治の基本である自分のことを自分ですることが出来るようになることを目指す。学科では、英語が初めての学びとなり、「自分の言葉で表現する」ことを大切にしている。今回の報告では、自分たちの寮生活を「物の管理」「お金の管理」「時間の管理」の3つの観点から見直し、課題をリストアップし、グループごとに改善のための話し合いを通じてそれぞれの課題の解決策を探索、実践して効果を検証したものを自分たちの英語で表現した。

I. はじめに

生活科は週2時間生活の授業で学んだことを寮生活で実践する中で、1年間で「物」「お金」「時間」の自己管理ができるようになることを目指している。1学期は自分の衣類を自分で手洗いし、クローゼットの中を清潔に保ち、管理する事など特に自分の衣類について勉強をした。お金については小遣い帳をつけ月の終わりには集計をし、おうちへ経済報告のはがきを送ることが定着した。時間については各自予定帳を携帯するようになり、少しずつ意識をすることが出来るようになってきた。初めての寮生活の中で苦労や失敗をしながら、また1年生に任されている様々な仕事をこなしながら寮生活に馴染んでいった。報告会では現状を踏まえ、生徒自身が少しでもよくしたいという気持ちをもって改善策を考え実践したことを発表できたならよいと考えた。

英語は、基礎的な単語や文法事項はもちろんのこと、我々の日常生活にあふれる英語や、英語を話す地域の文化や人々の価値観を学んでいる。そして同時に自分の思いを伝えることを重視してきた。今回の発表は、自分たちの身の回りの生活を振り返り、身の回りの言葉を英語で学び、英会話教員やティーチングアシスタントに意見やアドバイスを求め、英語で全員が表現した。

II. 報告会までの準備

2学期に入り、今までの振り返りをするとまだまだできていないと思うことがあった。各自の希望を聞き、「物」「お金」「時間」の3つのグループに分かれ、できていないと思うことを書き出し、その中から解決のため取り組みたいことを話し合っただけで決めた。次にその問題解決のためにどんなことをしたらいいか話し合い、グループごとに課題やその解決のためにしようと思っていることを発表し、クラスに呼びかけや働きかけをした。話し合いの時に2回高等科3年生に入ってもらい、よいアドバイスをもらった。話し合いの内容を各自記録するためプロジェクトノートをもたせた。アイデアが行き詰った時に教員にインタビューをしたり、図書館の文献を調べたり、英会話の教員やイギリス人ティーチングアシスタントに意見やアイデアを求めた。解決策が出た後、今度はそれを寮での生活場面において実践、その効果を検証した。例えば、「時間」グループでは、寮での100分間の「集中勉強」の時間を有効に使えていないという課題に対して、「1年生だけの勉強会を開く」という解決策を導いた。そして実際に勉強会を開いた。その結果、以前より20分間長く勉強時間することができた。さらにその結果から、「集中勉強」の時間の使い方は「寮で、1年生が集団で勉強できる場所を確保すること」、「勉強時間を1年生にアナウンスすること」で大きく改善することが明らかになった。同様に、他のグループでも課題発見—解決策を導く—実践—

検証の方法で取り組んだ。

発表に向けて、日本語で原稿を作成したものを英語の授業に加え、図書館で辞書を片手に熱心に調べたり、寮で上級生に教えてもらったりして自分たちの英語にして、その後、英語教員やネイティブスピーカーに発音のチェックを受けながら準備を調えた。

発表を英語でするため、自分たちの言いたいことがよく伝わらないかもしれないと考え、模造紙2枚分に自分の発表内容を書いたものを各自用意した。初めてのことで書き直しをしなければならない人もいたが、皆その人らしいものを書くことができた。

Ⅲ. 報告内容

1. 「物」グループ（8人）

課題	① 洗濯中や服を干す時に落とすことがあり、自分で気付かないうちに落し物になってしまふことがある。
原因	① 物の数を把握できていない、物をすぐに片づけない。
解決策	① 自分の衣類の持ち数を数える。
実践	① グループのメンバーそれぞれが持ち数調べ用の表を書き、他のグループのメンバーにもその中から自分がやってみたい表を選んでもらい、クローゼットに貼ってもらった。 ② グループメンバー同士でクローゼットの中を見合う。 整理できない人…全部出し分類、入れ直す。 きちんとなっている人…衣類の持ち数、全部で16の人のクローゼット。 ③ 衣類は洗濯してあるもの、ないものに分け、洗濯してあるものは分類し、引き出しにしまう。
検証	① 持ち数を把握する（なくなった場合はすぐにわかる。） ② 1日1回洗濯（その日着た服はその日に洗う）乾いたらきれいにたたみクローゼットに。
結論	① 持ち数を少なくする。 ② 物の位置を決め、置き場をしっかりと覚え、そこに戻す。
発表	After we put our stuff neatly, we can live comfortably. If we can manage our stuff, we never lose them. Remember the place we put our stuff on. And we can use it quickly. We want to use what we learned this time.

2. 「お金」グループ（7人）

課題	① お金を使い過ぎてしまう。 ② 月末に行う、その月の支出入の検算が一致しない。
原因	① 予算を守れていない、計画を立てられていない。 ② 何にいくら使ったかを覚えていないことがあり、小遣い帳に書くとき困る。
解決策	① G費（娯楽費）の予算1,500円を守る。 ② その日使ったお金は、その日に記帳する。 ③ レシートを手に入れる。レシートがないものは、紙に書いて財布に入れておく。小遣

	い帳は電卓を用いる。 ④ 休日、家からお金を持ってこない。
実践	① 買い物をする前に、小遣い帳から G 費の残高を確認する。 ② 月の終わりに収支が合っているか確認するための式を忘れてしまうのでその式を書いた紙を作成・印刷し、1 年生全員の小遣い帳に貼る。 ③ 夕食後に完全記帳にならなかった人を集めて教えあった。
検証	① 残高がわかっていると、お菓子を買っていいか、今は我慢するかがわかって予算を守ることが出来る。 ② 一回で完全記帳（支出入の計算が合っている）にすることができる 1 年生が増えた。
結論	① 買い物をする前に、小遣い帳から各費目の残高を確認する。 ② お金を使ったらレシートを手に入れ、その日に記帳する。
発表	We check 「費目残高」 and pay attention not to spend over 1,500 yen. So we know if I can or can't buy snacks. We put the income and expense into 「確認の式」 and checked the result.

3. 「時間」グループ（8 人）

課題	① 「集中勉強」の時間を有効に使えていない。期限内に提出物を出せていない。
原因	① 宿題がわからない。教室に宿題を置き忘れてしまう。部屋がうるさい。 ② 宿題を学校に忘れてしまう。後回しにしていたら、プリントをなくしてしまう。忘れるのが重なるとどれからやればいいかわからなくなり、ますますできなくなってしまふ。やろうと思っていたのに、気が散ってほかのことに夢中になってしまう。
解決策	① まずは実態を知るために集中勉強中に何をしたかクラス全員で時間調べをする。 ② 「集中勉強」の時間に寮で勉強会を開く。 ③ 国語の課題の提出表を調べ、提出状況を分析する。 ④ 宿題を提出できている人にインタビューをする。 ⑤ より良い予定帳の書き方を知るために、先生に聞きに行く。
実践	① 夕食時に勉強会をすることを呼びかけ、「集中勉強」の始まる 19 時から数学のワーク、漢検の勉強を行った。 ② 再度、集中勉強中の時間調べをする ③ 今まで教室の黒板の右隅に各教科の先生が提出物の締め切りなどを書いていたが、それを用意したホワイトボードに日付順に書いていき、全体にもよくわかりやすくする。
検証	① 勉強会を開く前に比べ、勉強会を開いたときは平均で 20 分勉強の時間が増えるという結果を得られた。 ② 宿題忘れが少なくなった。今後もグループでメモ帳を試しに使っていき、うまくいったら全体に提案する。
結論	① 勉強会が開けそうな場所を調べておくこと。 ② 質問しあえるよう机を丸く並べてみんなの顔が見えるようにしてやるのが効果的。 ③ ホワイトボードに、提出物を期限日順に記す。 ④ メモ帳を有効に活用する。
発表	We found out we could study 20 minutes more than before when we had 「勉強会」.

	Mr. Sarashina wrote his schedule on his white board. The important things were item by item. Then we thought his idea was very good. The notice board will solve our problem. Now we make a note in only our group. If it works well, we will tell it to the class.
--	--

IV. 報告会を終えて

全員が自分の生活を英語で発表したことがよかった。各グループの感想は以下の通りであった。

「物」の管理…みんなが失くし物を出さないようにしている。失くし物を0にしたい。

「お金」の管理…10月は全員が完全記帳になった。確認の式を覚えさせたい。

「時間」の管理…勉強会で楽しく勉強ができる。皆の提出物の提出状況がよくなった。

どのグループも自分たちで問題提起し、解決策を考え、皆に呼びかけ実践をしたことでそれなりの成果が見られ、働きかけをすればよくなると手ごたえを感じたようである。自分たちの意識の高まりの中で上級生にも目が向けられ、自治について考える機会も増えてきた。また、英語では未習の表現も英語で伝えようとチャレンジする姿勢を感じられる。特に発音はカタカナ英語にならないように意識して取り組んでいる。自己評価をいくつか紹介したい。

「英文の発音であまり意識していなかった”W”や”F”の発音がどういうものかを理解できた」「大勢の前で発表するのは少ないので、良い経験になった。今後は普段の生活から意識して過ごそうと思った」「学業報告を通して自分のことは自分でしっかりすることがやはり1番大切だと思った。今後の課題は皆が報告した自分のことをしっかり管理し続けられるかだ」

今回がただの報告の機会にならないよう、日々良い生活を追求し、言葉で表すことの大切さを意識して学びを深められるよう取り組んでいきたい。